

いかに出雲流庭園を伝えていくか ―津軽(武学流)に学ぶ―

木佐幸佳

1. はじめに

昨年、地方色豊かな青森県津軽地方の庭園づくりを紹介し、出雲流庭園との比較を試みた。残念ながら出雲流庭園の知名度は低く、あまり関心が持たれていないのが現状である。一方、同じように残っている津軽の武学流庭園は地元では知名度があり、様々な取り組みが行われている。そこで現地の庭の状況やPRの仕方、観光への取り組みについて説明するとともに、それを参考にして「いかに出雲流庭園を伝えていくか」について考えてみる。

2. 津軽地方(武学流庭園)の状況

昨年報告した津軽地方の武学流(大石武学流)庭園は400以上あるとされ、一般民家の間に広まっているという。また、作庭技法を受け継いでいく宗家制度が確立されており、この庭づくりに関するシンポジウムなどが近年、次のように行われている。

- ・大石武学流庭園シンポジウム(主催:弘前市) H27.9/23 開催
- ・大石武学流庭園サミット(主催:弘前市) H28.8/11 開催
- ・第14回文化財庭園フォーラム「大石武学流庭園と暮らす」(主催:文化庁ほか) H29.6/24.25 開催

一方、庭めぐりや庭園でのコンサートなども行われており、このような機会を通して住民へ地元に残る庭園文化の素晴らしさが周知されているようだ。

次に、いくつかの庭の現状やその管理、観光面の状況について紹介する。

1) 「瑞楽園」…弘前市管理

この庭園はかつて地元の大庄屋對馬家の所有であり、明治23~38年に改庭され昭和3~11年に増庭されている。昭和54年に国指定の名勝になっており、現在は市で管理されている。庭の規模は大きく、見ごたえのある典型的な武学流庭園となっている。



写真-1 瑞楽園(1)



写真-2 " (2)



写真-3 瑞楽園入口（庭園は左奥）



写真-4 庭園を説明するガイド

座敷から眺めて鑑賞する座鑑式で、池はなく大きな主木のマツが中央にある。座敷には武学流の作庭技法が描かれた掛け軸が飾ってある。ここではガイドの方が庭を丁寧に説明してくれる。素朴な語り口で地元の人々の温かさを感じる。

この庭の指定管理者は地元造園業者がなっており、小さなイベント（夏休み期間中のミニねぷたづくりなど）も実施されているようだ。

また、弘前駅の観光案内所にはここを紹介するチラシがあり、旅情を誘う良いデザインになっている。ただ、バスの便が少なく、アクセスが悪いのが難点である。また、付近には飲食施設がなく休憩スポットとはなっていないのは残念だ。



写真-5 瑞楽園のチラシ

2) 「麓風園」…弘前市管理

この庭園は弘前市役所岩木庁舎（旧岩木町役場）の前庭となっており、平成元年に完成した最も新しい武学流庭園と言われている。岩木山を背景にして当時の岩木町と地元の



写真-6 麓風園（右側に岩木庁舎）



写真-7 背後に岩木山が見える



写真-8 主木のマツと石組み



写真-9 「大石武学流」の石碑

造園業界が協力して作られたもので、「大石武学流」の石碑が置かれている。訪れた日はマツの剪定中であり、きれいに管理されていた。

現在の武学流の宗家（8代）が地元造園業者の一人であり、武学流庭園への愛着とともに地元の誇りにしていることを強く感じる庭となっている。ここは行政機関のため地元住民がよく訪れる場所であり、地元で溶け込んでいるのを感じた。

3) 「ギャラリー森山」庭園…民間管理

この庭園は一般民家を展示館に改装した建物とともにある。礼拝石を始め、飛石、手洗い石（蹲踞）に大ぶりの自然石が使われ、樹木も大きい。庭の規模は小さいが野趣があり、大正時代に作庭されたという。「元はもっと広がったが、家の前の道路拡幅で狭くなった」という話を、係の人からお茶とお菓子をいただきながら聞いた。

庭はよく管理されており、建物の中に武学流庭園を説明する説明板があった。この建物は弘前市郊外にある小さな展示館で、訪れた日は「芹沢銈介展」をしていた。質の高い展示とともに、弘前ねぶたの絵も飾ってあるなど津軽の文化度の高さを感じる施設となっている。



写真-10 「ギャラリー森山」入口



写真-11 庭園



写真-12 庭園（室内から見る）



写真-13 武学流庭園の説明板

3. 出雲流庭園の課題と魅力

1) 課題

地元に残っている「出雲流庭園」を広く観光客など他の地域の人に伝えていく時、この独特な庭づくりが地元ではあまり知られていないことが大きな課題である。いろいろな人に聞いても「出雲流庭園は聞いたことがない」という。そして、説明しても「ふ～ん。そーなの」と関心を示されないことが多い。その原因としていくつか考えられる。

- ①この庭の作り方は地元では当たり前だと思われている。
- ②一般民家の庭は生活空間であるため、公開されていないから様子がわからない。
- ③そのため、多くの庭が同じ作り方であることを知らない。
- ④出雲流庭園に関する調査・研究が少なく、起源・作庭技法等が不明である。
- ⑤造園業者の間でも興味を持たれていないため、庭の所有者もその価値を知らない。

一方では、庭の維持管理が難しくなってきたり、これまで残ってきた特徴のある庭がなくなってきたりしている現状がある。そのため、今その価値を改めて見直すとともに、保存や観光、文化面での活用が必要な時期に来ていると感じている。

2) 魅力

これまで出雲平野の独特な景観を作っている築地松が注目されてきたが、よく見ると屋敷・築地松・庭がセットになっていることが分かる。建物は南向き・築地松は北西向きにL字形・庭は南～南西方向で枯山水式につくることが一般的である。築地松がない家でも同様な作り方がなされており、他の地方の人から見ると大きな魅力に見える。そして、多くの家の庭はきれいに管理されており、これも魅力の一つである。

我々の会では、これまで10年間出雲流庭園の調査・研究をしてきたが、「なぜ同じ作り方をしているのか?」「なぜこの地域だけに限られているのか?」など、まだまだ不明な点が多い。しかし、このような未知なことも大きな魅力であると考えられる。

私は津軽地方の庭と比べてその特徴・数・内容において、遜色がないと感じている。そのため、地元の人へこの特色ある庭の魅力を伝えるとともに、その価値に自信と誇りを持ってもらうことが必要ではないだろうか。



写真-14 隣り合う家が同じつくり



写真-15 築地松のある家



写真-16 築地松のない家



写真-17 ある民家の庭（その1）



写真-18 ある民家の庭（その2）

今から約30年前に、出雲の風土や気質に育まれた貴重な文化や心を次の世代に継いでいきたいという強い思いを持った人たちが、旧江角家を移築して出雲文化伝承館をつくられた。我々は、先人のその思いを受け止めて出雲流庭園をはじめとする出雲の魅力を広く伝えていくべきではないかと思う。

4. 島根県技術士会の取り組み

地域の人たちに出雲流庭園の魅力を伝えるために、今年度我々が行ってきた具体的な活動を紹介します。

1) 文化講座の開催

昨年度から出雲文化伝承館（出雲市）と協力して、我々会員が講師となって文化講座を年2回開催しており、今年度も次のように行った。

①「出雲流庭園の石材」 原 裕二 (R元. 6/23)

②「出雲文化と庭園」－出雲文化伝承館の建設にまつわる人々－

伊藤幹郎 (R元. 6/30)

話の内容は各人の専門知識や経験を活かして、興味を引くような説明に努めた。講座後はふだん入れない庭園を回りながらガイダンスを行って、出雲流庭園の特徴などを説明した。参加者からは様々な質問が出て、庭に対する関心の高さを感じることが出来た。

また、松江歴史館（松江市）でも同様に文化講座を行い、多くの人々に地元に残る庭園の良さや10年ぶりに開催された地元の祭りとの関係などを説明した。

○「不昧公が愛した出雲の庭とホーランエンヤ」 林 秀樹 (R元. 8/24)



写真-19 文化講座（出雲:6/23）



写真-20 // （出雲:6/30）



写真-21 庭園のガイダンス（出雲:6/23）



写真-22 // （出雲:6/30）



写真-23 文化講座（松江：8/24）



写真-24 庭園のガイダンス（ " ）



写真-25 リーフレット（表側）



写真-26 " （見開き）

2) リーフレットの作成協力

出雲流庭園を紹介する冊子がないことを知り、我々会員が冊子の素案を作って出雲文化伝承館へ提示したところ、昨年6月にリーフレットの形で印刷された。当館をはじめ地元の各方面に配布された。我々も配布したところ、手に取った人からは「へえ～！こんな庭があるんだ。出雲流庭園という言葉は初めて知った」という声を聞いた。

3) 新聞への連載寄稿

これまで我々の会では、調査・研究してきた出雲流庭園に関することを「研究報告」の形で毎年発表してきた。それを基にして、昨年5月の連休時に地元新聞「島根日日新聞」の協力により、『出雲流庭園の魅力』のタイトルで次のように10日間連載された。

- ①「出雲流庭園の魅力」連載に当たって H31. 4/26～5/6 掲載
- ②出雲流庭園と呼んでよい庭園
- ③時代背景から見た出雲流庭園とその未来
- ④出雲流庭園と匠の技
- ⑤出雲流庭園の石材 Q & A
- ⑥出雲流庭園の不思議「古唐形と濡鷲形石灯籠」



写真-27 新聞連載①～⑤



写真-28 // ⑥～⑩

- ⑦「出雲流庭園に花は不要か？」
- ⑧「本陣庭園」と「出雲流庭園」
- ⑨島根の名庭めぐり
- ⑩出雲流庭園を救えーイエローブック出雲流庭園ー

これらの内容は出雲流庭園の特徴、時代背景、樹木、石材、灯籠などについて様々な角度から述べられており、この庭づくりを理解する上で良い資料になっていると思う。

5. 今後について

瑞楽園のガイドの方から「どちらからですか？」と尋ねられ、「島根県の出雲です」と答えると、「出雲には出雲流という独特の庭のつくり方がありますね」と言われた。おそらく、我々のこれまでの取り組みがインターネットを通して、遠く離れた津軽地方まで伝わったものと思われる。

また、県外のテレビ局や新聞社から「出雲流庭園」に関する問い合わせが我々の会にあり、取材協力を行っている状況である。

引き続き、出雲文化伝承館をはじめ関係団体と協力して、様々な活動を行っていきたい。また、観光客や地元住民へのガイドにより庭を説明する機会も考えてみたい。こうした活動により、出雲流庭園の魅力を多くの人に伝えてこの地域がにぎわう一助になればよいと思っている。

○参考文献

- 1) 「地方に残る庭園文化 - 「出雲 (出雲流)」と津軽 (武学流)」 - 木佐幸佳
H30 年度研究報告 島根県技術士会
- 2) 「総会講演『いま話題の大石武学流庭園』」 今井二三夫 東奥文化(89) 2018. 3
- 3) 「庭園文化研究分科会 平成 24 年度活動総括報告」 片山直樹
H24 年度研究報告 島根県技術士会
- 4) 「出雲文化と庭園」ー出雲文化伝承館にまつわる人々ー 伊藤幹郎
「出雲流庭園講座」資料 R 元. 6/30
- 5) 「出雲流庭園の魅力」(1)～(10) H31. 4/26～R 元. 5/6 島根日日新聞